

引津人権だより

糸島市人権・同和教育推進協議会 引津支部

第 41 号
令和 7 年 11 月 1 日 発行

市同協引津支部事務局
糸島市立引津コミュニティセンター
TEL/FAX: (092) 328-0855

人権講演会

7月は同和問題啓発強調月間です。引津校区講演会は講師に津軽三味線奏者「虎高」さんをお迎えしました。虎高さんは旅芸人一家に生まれ、3歳で初舞台を踏み、6歳の時に親元から他の一座に修行に出されました。しかし辛い修行を乗り越え、15歳で座長となり日本全国を巡り順調な生活を送っておられました。けれども東日本大震災に見舞われすべてを失い、自暴自棄になっていったそうです。そんな時、死のうとすら思っていた虎高さんを立ち直らせてくれた人がいました。その方の勧めもあり、自分の希少な体験が少しでもお役に立てればとの思いから、人権講演活動に携わるようになったとのこと。そんな虎高さんの津軽三味線の音色は力強さと優しさにみち、人の心をつかんでやみません。

【引津校区人権・同和教育指導員 坂口 久美子】



人権講演会の様子

街頭啓発

7月5日(土) 同和問題啓発強調月間事業の啓発活動として、引津校区人権・同和教育推進委員による啓発物品配布を行いました。

また、今年度より配布場所を、JAアグリからイオン糸島ショッピングセンターに変更して、人も多く予想以上に短時間で配布が終了しました。皆様のご協力ありがとうございました。

このように定期的にいろんな啓発を行うことで、地域の多くの皆さんに、人権・同和問題に理解、関心を深めていただき、これらの問題が少しでも解消するようこれからも活動していきたいと思っています。今後とも皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。【引津支部支部長 生月 春夫】



街頭啓発の様子

引津支部フィールドワーク

9月18日(木)、市同協引津支部で、「佐賀城本丸歴史館」と「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」へフィールドワークに行きました。

当日は、各施設のボランティアガイドの方の説明で、日本赤十字の前身となる「博愛社」を創設し、日本赤十字社初代社長を務めた佐野常民を中心に、近代日本の基礎を築いた幕末佐嘉の七賢人(鍋島直正、大熊重信、佐野常民、島義勇、江藤新平、副島種臣、大木喬任)の功績について学習しました。内容的にも学ぶことが多く、時間が足りないと感じるほど充実したフィールドワークとなりました。

【引津支部副支部長 岡崎 正幸】



佐賀城本丸歴史館を視察

12月4日～10日は人権週間です

引津支部では、同和問題を始めとするあらゆる人権問題の正しい認識を高め、一切の差別を許さない校区住民の育成を目指しています。

※人権映画祭の詳細は裏面をご覧ください！
みなさまのご参加をお待ちしています♪

【人権週間行事】

- 11/22(土) 11:00～ 街頭啓発@イオン糸島店
- 11/29(土) 14:00～ 映画祭@引津コミセン
- 11/30(日) 14:00～ 映画祭@姫島公民館

引津校区人権映画祭のご案内

入場無料

『あの日のオルガン』



上映時間(119分)

引津会場

日時: 11月29日(土) 14:00~上映

会場: 引津コミュニティセンター 大研修室

姫島会場

日時: 11月30日(日) 14:00~上映

会場: 姫島公民館



【あらすじ】第2次大戦末期に保母(保育士)たちが幼い園児たちとともに集団で疎開し、東京大空襲の戦火を逃れた「疎開保育園」の実話を戸田恵梨香と大原櫻子の主演、山田洋次作品の多くで脚本、助監督を務めてきた平松恵美子の監督、脚本により映画化。1944年、第2次世界大戦末期の東京。警報が鳴り、防空壕に非難する生活が続く中、品川の戸越保育所では園児たちの安全を確保するため、保母たちが保育所の疎開を模索していた。ようやく受け入れ先として見つかった埼玉の荒れ寺で疎開生活をスタートした若い保母たちと園児たちは、日々噴出するさまざまな問題に直面しながらも、互いに励ましあいながら奮闘していく。



太平洋戦争末期、53人の子どもの命を守った保母たちがいた。誰もが自分のことで精一杯だった時代、彼女たちを突き動かしたものは一体何だったのか？

出演: 戸田恵梨香、大原櫻子、佐久間由衣、三浦透子、堀田真由、福地桃子、白石系、奥村佳恵、萩原利久、山中崇ほか

主催: 糸島市人権・同和教育推進協議会 引津支部